



会報 第19号

●発行所●
栃木県立真岡農業
高等学校同窓会
●発行人●
同上編集部
●印刷所●
こだま印刷



伝統の灯

同窓会長 菊地 恒三郎



八十七年にわたり、優秀な農業後継者の育成教育一筋に伝統と歴史を積み重ねてきた真岡農業高等学校も、時代の大きな変革の中で、平成七年度から農業科系、商業科系、家庭科系の三学科系をもつ多機能高校へと脱皮するという飛躍的な発展のときを迎えました。

開校以来今日まで、多くの有能な農業人を輩出し、地域農業の発展に大きな貢献をしてきた真岡農業高等学校も、これからは農業のみならず幅広く産業界に活躍できる人材の育成に携わることになりました。

しかしながら、八十七年の輝かしい伝統に磨かれた「真農魂」の灯を更に強いものとし、どっしりと大地に根を張った、逞しく優しい生徒諸君の

新校名『真岡北陵高等学校』に

学校長 安野 弥一郎



同窓会の皆様には本校への日頃の御理解と御協力に対し心から感謝申し上げます。折角の機会ですので、本校の近況についていくつか御報告いたします。

(1) 学科再編について

会員の皆様には本校の支援、御協力をいただいております。本校の学科再編もいよいよこの四月から時代のニーズにあった新しいタイプの学校として、学科の枠をこえて多様な科目の選択学習ができる総合選択制職業高校へと転換することになりました。現在、新しく設けられる、商業系学科

(ビジネス会計科、情報処理科)及び家政系学科(教養福祉科)の実習棟の建設が急ピッチで進められており、十一月頃には完成の運びとなっております。農場の施設も昨年末をもって完了し、他校には見られない整備をしていただきました。

校名変更につきまして、は、約一年間にわたり校内に検討委員会をもうけ、広く教職員、生徒等から案を募りました。提案のあった約百余の中から色々と検討の結果、栃木県立真岡北陵高等学校(略称北陵高)と決定させていただきました。

国大会が本県において開催されることになりました。全国から農業クラブ員五千名、関係者千五百名の参加が見込まれ、十一月八・九日の二日間県内の各会場でプロジェク発表会、意見発表、平板測量競技、農業鑑定競技、農業情報処理競技等の競技会や式典が行われます。本校は平板測量競技と栃木の農業、物産展を担当し、特に平板測量競技会については真岡市の中心にある市民公園とその周辺の施設をお借りし開催することにしております。本県で開催される初めての大会でもあり、全国の農業高校生が一堂に会する又とない機会でもありますので、新生真岡北陵高をPRする絶好の機会にしたいと思っております。

(3) オーストラリア農業研修について
農業系学科の新たな学科再編に伴い、質の高い農業後継者が数多く入学されることを期待し、併せて農業の国際化に対応出来る農業教育の一環として、本年度より本校独自で希望する生徒を約二週間オーストラリアに派遣し研修させることを計画致しました。本年度は三月九日より二十一日までの十三日間、オーストラリアの砂漠地帯における代表的な米生産地である、マランビジー灌漑地区の稲作の実践を学ばせることになりました。オーストラリアのこの時期は日本と反対で取り入れの

最盛期であります。リーディングの予定になっており、折角の機会でもありますので同窓会青年部の皆様にも参加を呼びかけている所でございます。

青年部長として

昭和五十九年度卒

大内支部 菅谷 佳宏



本校の同窓会青年部の部長を引き受けてから二年が過ぎ去ろうとしていますが、私にとっては長くて短かい、あつという間の二年間でした。この二年間を振り返って見ると、色々なことが思い出されます。青年部の学校行事への参加は役員さん達の協力もあって、学校祭や就農者を励ます会など多くの行事を行ってることが出来ました。

一年目は、青年部長という大役を任されて、全く無我夢中の一年でした。そして二年目は、何もせずに過ぎ去ってしまった様な気がします。

今になってからですが、思うには、本校の同窓会青年部の部長というのはこの様な事をしなければならぬのか、いやあのような事もしなければならぬのではないかと、あとを振り返って反省することばかりです。

本来ならば、自分を育ててくれた本校に対して少しでも協力して恩返しをしなければならぬ立場なのに、青年部の部長を任されてから、自分な

りに一回りも二回りも成長させてもらいました。母校というのは、自分達が卒業してからでも足を運ぶたびに、色々な事を学ばせてくれ、そして力になってくれたように思うのです。

自分なりに青年部長として努力してきたようにも思いますが、まだまだやり残した事ばかりなので、これからも本校と、そして本校同窓会のために協力し、努力していきたいと考えています。



栄えある就任・叙勲 おめでとうございます

助役就任に当り一言



昭和十五年卒業
同窓会常任理事
田上進一

平成七年の新春を迎え心からお祝詞を申し上げます。高により、先行き予断を許さない状況にあります。加えて厳しい財政状況であります。真岡市収入役二期目途中から、昨年四月一日図らずも助役を拝命いたしました。もとより微力であり、掲げた本業を引き続き推進することは勿論、就中、生活環境、社会資本の整備は、まちづくりの基盤であり、地域社会の発展、市民生活の向上に不可欠の事業であり、これらを積極的に進め、より良好な状態で、またより美しく整備し、次の世代へ引きついでいく事は、現代の執行部・議会に課せられた責任であると痛感しております。又本年度重点事業として進めております税収の安定的な基盤確立のためには雇用の確保のため、第三、第四工業団地の造成、市民待望の真岡井頭温泉の着工等、加えて北関東自動車道のインターチェンジ周辺の開発等々、二十一世紀に向けての人口十万人都市真岡を目指す。真岡市長を先頭に全市民一丸となって全力投球、以って市政の更なる発展と市民福祉の増進に向けて努力精進しなければなりません。

私は古稀を過ぎましたが、四月から時代の変化や多様な進路に対応する、新生真岡北陵高校としてスタートをする本校と、同窓会の益々の発展を心よりお祈りいたします。助役就任に当り一言

勲章



昭和十六年卒
吉羽和郎

小学校一年生のときである。学校の文具と玩具と駄菓子と一緒に買った店先に大きな厚紙に大小の勲章を貼りつけて子供達の目をひいた。勲章は色鮮やかなブリキ製の賞品である。小使銭を投じて挑戦した籤は二日間総て空くじで賞品は飴玉であったが執念の三日目遂に三等賞が当たった。

射止めた勲章は「日の丸」を象徴する真紅の日光を中心に白地に金線で太陽の輝きを表現した図柄であった。今にして思えば、それは勲一等旭日大綬章であった。勲章は夜も寝巻の胸につけてやすんだ。学校へは下着に付けて行き授業中ときどき上着の上から指先でおさえたしぐさを今も思い出す。そのときから指折り数えて六十二年、今度は籤でなく地域文化の振興な

章を授与する」と云う文言は久しく心から遠ざかっていった「国体」とか「国家」とか「憲法」とかそんな言葉がなぜか脳裡を走った。そして十厘角もある大きな印に「大日本国璽」

勲五等双光旭日章を 受章して



昭和十六年卒業
同窓会副会長
金敷芳雄

私は昭和十四年四月農家の後継者育成の場、真岡農学校全校生百五十名最後の一年生として入学、昭和十六年十二月繰上げ卒業したのである。大東亜戦争開戦の時でした。卒業後農業に従事、母校の精神（報徳）にそって一生懸命働きました。

昭和十九年九月現役兵として宇都宮東部三十六部隊に入隊、一年間の軍隊生活で終戦。敗戦後の生活、あらゆる困難にも耐え忍び、農業に従事、国家の再建に働き続けて参りました。

数多くの役職を経て来ました。なかでも真農校のPTA会長の時、同校に機械科ができ、本来なら工業高校として分離しなくてはならないのです。其の時、私は自分の決断で、「立替えま

すから予算に組入れて下さい」と申し、知事さんと約束をしました。これで分離実現立替金は約五千万円とあります。真農校と工業校が分離独立する

農業士に就任して

真農高の実践教育に感謝して



昭和四十二年卒業
海老原 廣

言う病氣です」と、その場で教えて下さいました。今でも覚えております。その他実践で役に立つことはほとんど実習で教えて頂きましたことに、心より感謝しています。

卒業と同時に花栽培を始めましたが、大変の一言でした。「鉢花」は一鉢全体が商品です。花、花柄、葉と鉢とのバランスで一鉢の値が付きまします。鉢が何万円から何百円という値のひらきがでますので、地域の仲間と勉強しようと真岡普及センターへ。芳賀鉢物研究会が発足して約二十年になろうとしています。

メンバは約七割が本校の卒業生です。年間行事は用土分析、栽培体系の見直し、簡易栄養診断、市場調査、現地検討会、ゴルフコンペ等を行っております。

私の所では、研修生を二十名受け入れて現在十五名ぐらい花栽培をして活躍しています。中でも九州へ帰った子が、九州で始めて高い値で取引ができましたと、私に報告があり大変嬉しかったです。私も更に誠心誠意花作りを通して社会のお役に立ちたいと願っています。今後とも本校の先生方並びに同窓生の皆様方のご指導をお願い致します。

優良農家紹介

今日までの営農経緯



昭和三十七年度卒
上三川支部 黒 須 實

当時我が家では、米麦を雇い専ら栽培に切り換えた。三年後に夜冷庫を導入し早出しに取り組み、現在もう一台増して40a作付をしております。一昨年から育苗管理省力化としてセル育苗を取り入れました。これらにより夜冷庫二台で40a分の苗が育苗できます。

これは、セル育苗がかなり普及するものと思えます。以上が経営内容です。

現在農業をとりまく情勢は大変厳しく、不安を感じますが、今までの経験を生かし、営農の確立と地域の発展に頑張りたいと思います。

我が家の農業経営



昭和三十九年度卒
中村支部 永 嶋 祐 一

私は昭和三十九年度、真農を卒業と同時に就農しました。

就農当時の我が家は、少しばかりの米麦を中心に専ら栽培を始めていました。その頃の専ら栽培は、小トンネル栽培で労力的にみても非常に手間がかかり、金にもならなかった。

その後中村物産のプリンスメロンを導入し、約十年近く栽培したのですが、技術が伴わずにやめたのです。

その後、夏秋ナス栽培にと移ったわけです。当時のナス栽培は支柱一本だけの作りでしたから、風が吹くと支柱の通し直し等で大変苦労した思いがありました。

専ら収穫し、メロンの管理、そしてナスの作付6ha位、麦播きで7ha位

営農集団について



昭和四十三年度卒
大内支部 羽 石 裕 志

私共の大内トラクター組合は昭和四十八年十一月、四名の若同志で任意組合として設立しました。最初に、デビットブラウンという三十八馬力の中古のトラクターを一台共同で購入し、他の作業は、各自の農機具を使用しました。そして、昭和五十二年には補助事業を導入し、作業納屋四十坪、トラクター六十二馬力、コンバイン四台刈り乾燥機二台他、作業機を購入し、作業の効率化に努めました。また、作業地区は栃木県内に限らず福島県方面にも及び、トラクターの作業に出掛けました。その後、県内各地をまわり、利益が出たので、トラクター三十馬力、二十八馬力、八十八馬力、コンバイン五台、七十馬力のトラクター一台、乗用六条田植機一台、八条ドリルシーダー一台、トラレーザ二台等を保有して利用しています。

この度、私の様な者が優良農家表彰を受け、身に余る光栄と、責任の重大さを痛感している所です。

我が家の農業経営



昭和四十三年卒
山前支部 塩 野 谷 進

私は、昭和四十三年に真農高を卒業と同時に就農しました。その当時の我が家の経営内容は、米、ナス、小トンネル、夏秋トマト、ナスなどを栽培していましたが、農協からのアドバイスで農業後継者育成資金を借り入れて、パイプハウスから連棟ハウスへとトマト栽培の規模拡大に努力してきましたが、途中から専ら栽培に切り替え、現在は二十五アールのハウスに、夜冷施設を導入し十一月下旬出荷を目標に栽培しています。専ら品種も、消費者のニーズにあった品種へと変わってきました。

母と共に農家としての第一歩を踏み出しました。長男である私が専ら栽培を手伝う事は必然的なもので、小さい頃より、敷ワラ入れなどの簡単な牛の世話をしており、私と乳牛の長い付き合いが始まりました。我が家の酪農は二十九年に未經産牛一頭を北海道から六万円で購入したのが始まりです。「一年に一頭を」がモットーで無理なく増頭し、四十五年には二十頭を数えるまでになりました。

我が家の農業経営



昭和四十五年卒
上三川支部 隅 内 貞 男

私は、昭和四十五年に卒業し、その春栃木県立農業短期大学の畜産科で二年間学び、それから卒業後北海道へ酪農実習に約一年間学びました。

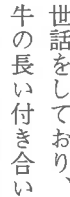
この高校から実習での経験は、いまの経営と生活において大変役立っています。実習後直ちに就農し、その頃は水田プラス酪農プラス干瓢という形態でしたが、干瓢などは一時的ですが朝早く、牛の搾乳時間などとかち合うために、私が二十二才の時に辞め、その後は酪農に力を入れ、土作り、牛作りイコール良い牛乳になるよう頑張りました。牛乳の検定組合に加入し毎年良質乳の表彰を受けるようになりましたが、それに倣うことなくこれからも精進して誰もおおいしく安心して飲める牛乳を生産していきたいと思っています。

現在は、成牛二十二頭、育成牛十五頭（出荷乳量十八万キロ）繁殖牛十二頭、子牛十頭、水田百六十アール、畑百二十アールの経営で、労働は主に私と妻です。



昭和四十三年度卒
真岡支部 増 山 清 樹

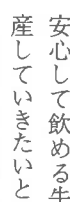
私は昭和四十三年度に真農高の畜産科を卒業しました。高校時代はプロジェクト活動を積極的に行ない、卒業時には学校から我が家の基礎牛とするための育成牛を払い下げて頂き、将来の規模を成牛三十頭と目標を定め酪農に意欲を燃やしておりました。当時の真岡市



昭和四十四年度卒
上三川支部 隅 内 貞 男

私は、昭和四十四年に真農高を卒業と同時に就農しました。その当時の我が家の経営内容は、米、ナス、小トンネル、夏秋トマト、ナスなどを栽培していましたが、農協からのアドバイスで農業後継者育成資金を借り入れて、パイプハウスから連棟ハウスへとトマト栽培の規模拡大に努力してきましたが、途中から専ら栽培に切り替え、現在は二十五アールのハウスに、夜冷施設を導入し十一月下旬出荷を目標に栽培しています。専ら品種も、消費者のニーズにあった品種へと変わってきました。

母と共に農家としての第一歩を踏み出しました。長男である私が専ら栽培を手伝う事は必然的なもので、小さい頃より、敷ワラ入れなどの簡単な牛の世話をしており、私と乳牛の長い付き合いが始まりました。我が家の酪農は二十九年に未經産牛一頭を北海道から六万円で購入したのが始まりです。「一年に一頭を」がモットーで無理なく増頭し、四十五年には二十頭を数えるまでになりました。



昭和四十五年卒
上三川支部 隅 内 貞 男

私は、昭和四十五年に卒業し、その春栃木県立農業短期大学の畜産科で二年間学び、それから卒業後北海道へ酪農実習に約一年間学びました。

この高校から実習での経験は、いまの経営と生活において大変役立っています。実習後直ちに就農し、その頃は水田プラス酪農プラス干瓢という形態でしたが、干瓢などは一時的ですが朝早く、牛の搾乳時間などとかち合うために、私が二十二才の時に辞め、その後は酪農に力を入れ、土作り、牛作りイコール良い牛乳になるよう頑張りました。牛乳の検定組合に加入し毎年良質乳の表彰を受けるようになりましたが、それに倣うことなくこれからも精進して誰もおおいしく安心して飲める牛乳を生産していきたいと思っています。

現在は、成牛二十二頭、育成牛十五頭（出荷乳量十八万キロ）繁殖牛十二頭、子牛十頭、水田百六十アール、畑百二十アールの経営で、労働は主に私と妻です。



優良農家紹介

我が家の農業経営

昭和四十六年度卒

山前支部 池田 善弘



私がシクラメン栽培を
導入した昭和四十八年頃
真岡市内でシクラメン生
産者は二、三人でしたし、
一般にもあまり知られて
いなかったようでした。
しかし今では、暮れの御
歳暮等、一般の消費者に
とってなくてはならない
鉢花の一つになってしま
した。このような時代の
流れもあり、現在我が家
の鉢花生産額の割合は九
割を占めようとしていま
す。毎年十二月末、真岡
市公民館で行われる芳賀
地方の花の展覧会には多数
の花の愛好者が訪れ、展
示物、即売の商品がわづ
かな時間で全部売り切れ
てしまう程の人気です。
この即売は消費動向の参
考になり、品種の選択に
も役立っています。
●花卉栽培面積
(1)ガラス温室三百二十坪
(2)ファイロン二百坪
(3)ビニール 二百坪
●水稲面積百九十アール
●果樹(なし) 三十アール
●花卉の種類
(1)シクラメン
(2)インパチエンス
(3)クジャクサボテン

我が家の農業経営

昭和五十六年度卒

益子支部 勝田 育夫



私は、昭和五十六年度
に真岡農業高校を卒業し
より専門的な知識を勉強
する為に、栃木県農業短
期大学校に入学しました。
卒業後、団体職員として
八年間勤めましたが、平
成五年に辞め、ユーター
ン農業という事で就農し
ました。私が就農するま
では、苺・ブラス水稲・ブ
ラス畑作という農業経営で
したが、現在は、苺20ア
ール、水稲120アールと就
農してから新規導入しま
したスプレー菊600坪をブ
ラスした農業経営を行っ
ています。

ご挨拶とPTA活動報告

昭和四十二年度卒

鈴木 一



設置の環境、新商品の
遮光資材、微生物の有効
利用の五つに「こだわり
をもち、試作区を設けて
います。この試作により
どんなにきいな疑問でも
一つ一つ解決することが
来年への自信につながり
思いもよらないほどの成
果となる場合があります。
一つ一つの疑問点をクリ
アして、マイペースでシ
クラメン栽培に取り組ん
で行きたいと思っています。
●花卉栽培面積
(1)ガラス温室三百二十坪
(2)ファイロン二百坪
(3)ビニール 二百坪
●水稲面積百九十アール
●果樹(なし) 三十アール
●花卉の種類
(1)シクラメン
(2)インパチエンス
(3)クジャクサボテン

私は、昭和五十六年度
に真岡農業高校を卒業し
より専門的な知識を勉強
する為に、栃木県農業短
期大学校に入学しました。
卒業後、団体職員として
八年間勤めましたが、平
成五年に辞め、ユーター
ン農業という事で就農し
ました。私が就農するま
では、苺・ブラス水稲・ブ
ラス畑作という農業経営で
したが、現在は、苺20ア
ール、水稲120アールと就
農してから新規導入しま
したスプレー菊600坪をブ
ラスした農業経営を行っ
ています。



今年度のPTA活動状
況は、四月二十六日、P
TA総会、新事業計画、
新役員が決まり、十六支
部と新役員一丸となって
本校PTA運営に努力し
ております。六月十七日
から各支部が盛大に行
なわれ、九十パーセント
以上の出席率でした。七
月七日、八日の二日間、
関P連大会が群馬県前橋
市で開催されました。七
月十一日、十二日は役員
県外研修で山梨県の象牙
彫刻美術館、東京多摩青
果に視察に行きました。
八月二十五日から三日間
猛暑の中で全国高P連大
会が大阪市に於て開催さ
れました。九月十一日、
母の会で県内視察が行な
われました。十月十三日
県内高校の、母の会大会
が本校で行なわれました。
今年度は交通事故(バイク
が例年になく多発。二名
死亡者がありましたこと
は残念であります。十月
三十一日に臨時総会を開
催し、「交通安全防止」の
決議文を採択しました。
十二月、母の会で正月用
寄せ植え講習会を催しま
した。この他多くの事業
が遂行されて来ておりま
す。これも皆様方の御支
援があればこそと、深く
感謝しております。
今後ともPTAに皆様
方の御指導と御支援の程
を宜しくお願い申し上げ
ます。

厳しかった平成六年の進路状況

進路指導部長 稲葉 光 國

平成六年度は、円高を
契機に破綻したバブル経
済の反動で、各企業とも
主力工場の海外移転やリ
ストラが徹底して行われ
最悪の求人状況になって
しまいました。
平成四年度に十倍を越
えていた本校の求人倍率
は、平成五年には五・三
倍に半減し、六年には二
・三倍とさらに半減。そ
れでも県内の他の高校や
専門学校と比べると恵ま
れた方で、十一月には就
職希望者全員が内定いた
しました。これも今まで
の先輩諸氏の努力と実績
の成果であり、感謝申し
上げます。
就職戦線でもっとも影
響を受けたのが大学・短
大・専門学校だったよう
です。高校でも公務員や
一般企業の事務職志望者
は各企業とも求人数を減
らしたうえに、大学・短
大からの受験者があつた
ために大変厳しい環境で
した。特に自衛隊関係は
昨年引続き、三倍前後
の競争率で狭き門であり
安易な受験は出来ない状
況になっていました。
平成六年度の主な進学・
就職先
【進学】
茨城大学・八戸工業大学
・鯉淵学園・東京農業大
学短期大学部・国学院栃
木短大・作新学院女子短
大・郡山女子短大・聖徳
栄養短大・結城看護専門
学校・栃木県農業大学校
・佐伯栄養専門学校・氏
品工業(株)・ハインツ日本
・宇都宮工場・関工第一
企業(株)・仙波糖化工業(株)
・磯崎堂印刷(株)ホテル
ニュー塩原・真岡松下電
工(株)・イシカワクリエ
ティブ・渋谷精機(株)那
珂川ゴルフ倶楽部・医療
法人桜美会・桜井内科・
港南株式会社・第一化成
(株)・関東自動車(株)・真
岡テクノサービス・東野
交通(株)・グンゼ(株)・シ
ヤデー・(株)吉野工業所
宇都宮工場・木代歯科医
院・(株)ハイマート・(株)ホ
ンデン・国際興業(株)・山
崎製パン(株)・医療法人桜
美会・ナッシングホーム青
葉・(株)魚太・(株)はせ川・
(株)サンメイ・医療法人桂
慈会菊池病院・福田屋百
貨店真岡店・野州たかむ
ら・那珂川観光(株)・マル
ハ(株)・栃木食品(株)・ブド
ー真岡工業(株)・石橋総合
病院・(株)大塚商事・小谷
歯科医院・アピア・陸上
自衛隊
オーストラリア短期研修
について
今年度から進路指導部
が中心となってオースト
リア・リートン地区の
水稲を中心とした農業研
修を実施することになり
ました。生徒は十三日間
ですが本校独自の研修制
度であり、同窓会会員の
参加も八日間に限って募
っておりですので、是非
ご参加下さい。

活動報告

生徒会活動の一年間

生徒会役員

昨年一月に役員の引き継ぎを行ってからちょうど一年が過ぎました。その間のことを行事を中心に振り返ってみましょう。

●球技大会
新しくキックベースボールを導入してみました。男子と女子の力の差が予想以上だったのは反省点です。

●予餞会
初めて自分たちで主催する行事なので、挨拶をするにも、進行の号令をかけるにも、とても緊張しました。

●対面式
初々しい一年生を前にして、先輩らしく振舞おうとして、少し無理をしたかもしれません。

●部活動紹介
各部が工夫を凝らした演出を考えてくれたため変化に富んだおもしろい内容にすることができました。

●交流会
残念ながら雨に降られてしまいました。楽しい一日を一緒に過ごすことができなかったのが残念です。

●生徒総会
議長団の少ない晴れ舞台です。全員の協力でスムーズに議事を進行することができました。

●総体開会式参加
片手に蘭の花を持って行進し、我が校の特色を披露することができたと思います。

農業クラブ活動の一年

農業クラブ顧問 外山 光一

平成七年度に第四十六回日本学校農業クラブ全国大会を本県に迎えるためか、今年度の農業クラブ活動は、古谷智則会長を中心に昨年に増して活発に活動して来ました。ここで本年度の農各各種発表並びに競技の成果を報告させていただきます。

●夏祭り
真岡市内の各高校の役員と共に、神輿をかつぐことで、親睦を深めることができました。

●体育祭
大きく形を変えた今年の体育祭。まだまだ考えていかなければならないことは多いと思います。

●交流会(秋季)
本校の果樹園を中心として、リンゴ狩りや写生をして楽しむことができました。

●学校祭
今年も合宿をして、バレーの準備を行いました。PAを使いこなせなかったのが残念です。

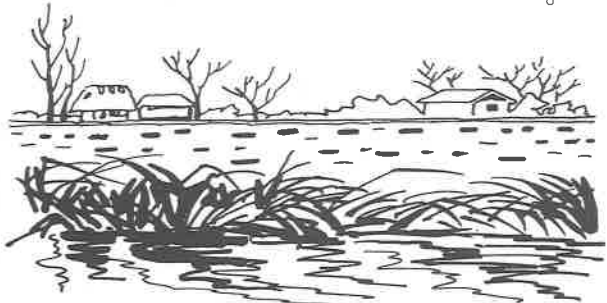
●生徒総会
議長団の少ない晴れ舞台です。全員の協力でスムーズに議事を進行することができました。

●総体開会式参加
片手に蘭の花を持って行進し、我が校の特色を披露することができたと思います。

●生徒総会
議長団の少ない晴れ舞台です。全員の協力でスムーズに議事を進行することができました。

●総体開会式参加
片手に蘭の花を持って行進し、我が校の特色を披露することができたと思います。

●総体開会式参加
片手に蘭の花を持って行進し、我が校の特色を披露することができたと思います。



アルミ缶のリサイクルを始めて

家庭クラブ顧問 猪瀬 由美子

平成六年度は県連家庭クラブの発表校でもあり、新学期スタートと同時にクラブ員の意識を高める研究活動をしたという気持ちでいました。身近な環境問題に目を向け、改善をしたいという事になり、校内のいろいろな場所に設置されているアルミ缶の空き缶、パックに気がつきました。健康面とゴミ問題の両面から会長を中心に研究が進められました。

●学校でも真岡市でもゴミについては大きな課題となっています。そこで役員は二宮、真岡清掃センターを訪れ、ゴミ処理の実態を見学しました。そこで、一番驚いた事は不燃ゴミの手選別の作業でした。スチール、ビン、アルミ缶を作業員の人達が一つ一つ手作業で選別していたのです。役員達は学校にもどり、高校生として何をしたらよいかと考えました。そして、学校でも分別を徹底しようというところで活動を始めました。焼却炉の前に三つの大きなカゴを用意してもらい、ビン、スチール缶、アルミ缶の表示をし、分別をしました。会員四名がカゴの前に立ち、ゴミを出しにくる生徒と共に分別をします。

●九月に行われた県連の研究発表大会では、ジュースの糖度を調べた結果など健康面についても発表しましたが、毎月実施しているクリーン運動やアルミ缶の回収など、役員だけではなく、学校全体の活動として広がったことが高く評価されました。

●今も分別回収は続いています。根気のいる地道な活動ですが、会員だけでなく、生徒一人一人の意識が少しずつ変化してきたように思えます。今後は、ジュースの飲み方選び方についても意識を高め、少しでもゴミの量が減ることを期待したいと思っています。

農業クラブ全国大会に

参加して

生活科学科二年 本橋 千恵子

私たち二年五組十一名は、十月二十六日から二十九日までの四日間、香川県で行われた第四十五回日本学校農業クラブ全国大会・プロジェクト発表部門に参加してきました。

●県大会・関東大会ではレベルの高い発表が多く見られ、最優秀賞を取れるのかと不安もありました。そんな中、「全国大会に出場したい」という一人一人の気持ちをくみることができたのか、最優秀賞を取ることができました。この賞を取るために私たちは学校の寮で合宿をし、夜、体育館で遅くまで練習をしたり、資料作りや図表の作成などをしました。この結果が、全国大会に出場できたことにつながったのだと思います。

●全国大会では今までの発表よりも一層レベルが高かったと思います。私たちは精一杯できる限りの発表をしてきました。結果は残念ながら優秀賞で、しかし私たちなりの発表ができたので、よかったと思います。また全国大会に参加できたことにより、他校の人達との交流が深まりました。そして、全国大会で学習できたことをこれから

●プロジェクト活動に役立てていきたいと思っています。

●全国大会で優秀賞という結果を残せたのは、御指導してくださった先生方、そしてクラスのみんなの応援があったからこそだと思います。また、平成七年度の全国大会は、栃木県で行われるので、出場できるよう練習に、そしてプロジェクトに必要な資料作りを力を入れています。



益子養護学校との ふれあい活動に参加して

二年一組 菅 谷 正 一

本校は、益子養護学校との交流を積極的に行っています。今回は、本校のいちご狩りの様子についてお話しします。

当日は、あいにく雨が降ってしまいましたが、そんな天候だったから、僕も気分もだんだんと下り気味になってきた。時間もあつた程度で、雨の中を益子養護学校のみんが到着した。みんなとても楽しそうだったので、僕達も少しづつ明るくなってきたような気がした。

先生、生徒会長の話を聞いて、早速いちごハウスの向った。雨が降っていたせいか、ハウスまでの道がとて長く感じた。みんなはともにも楽しそうに歩いていった。中にはスキップをしていた子もいた。まもなくハウスに着いた。ハウスの前で少し話があつた。だがみんなは、うれしかったせいか話をあまり聞かずに、はしゃいでいた。

一斉にハウスの中に入つていった。みんな周りをよく見回していた。みんなは、いちごの香りと美しい色に魅せられて興奮してきただろう。先生や私達にうれしさを伝えて来た。

オランダ研修の思い出

農業機械科二年 大 関 剛

私は、この夏休み七月十三日から八月八日の間に県内の農業高校オランダ派遣実習生十名に選ばれて参加してきました。

ここにその一部を紹介したいと思います。

事前研修は、五回ほどありました。その中でダミアン先生による英会話は大変役に立ち、感謝しています。参加前に数多くの方々から激励やお餞別を頂きました。直前は準備に追われて、めまぐるしい状態でしたので十分なお礼の言葉も返せず

失礼をしました。今、改めて感謝の言葉を申し上げます。

七月十三日の朝、宇都宮白楊高校に集合し成田に向かい、出発しました。仲間はずれぞれスーツを着ているので大人っぽく見えました。

生まれて初めて飛行機に乗り、とても嬉しく感じました。十二時間のフライトは長い時間に感じました。しかし、オランダのスキポール空港に着くと、すべてが吹くように感じました。

期待と感動で胸がはじけるようでした。空港で待ち受けたJTBの添乗員の寺尾さんの案内で、ホテルへと向いました。

市街に入ると、古い建物が見え、建ち並んでいるのを見てびっくりしました。食事のあとは疲れのために、ぐっすり寝てしまいました。

次の日はアムステルダム市街を観光しました。ホテルに帰ると、ホストファミリーの代表のスタイルンベルンさんが待っていました。そして私達は駅からメップルという町に向いました。そこには兵藤君と石川君のホストファミリーの方が待っていました。私達はそこの方たちの車に乗って、ロイネンのホテルに行き、宿泊しました。次の朝、朝

食後、私たちのホストファミリーの方々がぞくぞくやって来ました。車の中は大変緊張しました。時が過ぎて彼らの話の内容が解ってきたので、まづ安心しました。私がお世話になったのは、ヤン・ウェスリングさんのお宅でした。ヤンさんは広

仕事の内容は日本とほぼ同じでしたので、楽しくホームステイ生活を送ることができました。

あつという間に最終日になってしまいました。八月三日は私の十七歳の誕生日で、みんなが祝ってくれました。涙が出そうになるほどうれしく感じました。別れの寂しさも入り交じっていました。ホームで電車を待っているときも、歌を歌って祝福してくれました。握手を何回もしました。「もう一度オランダに来るぞ」と心で叫び帰国しました。一生の思い出になると思います。協力してくれた皆様に感謝します。有難うございました。

平和公園を見学して

一年三組 広 瀬 年 史

修学旅行の最初の見学地は、広島市の平和公園だった。真岡農業高校から八時間以上もかけて来たので、多少の疲れはあった。

広島駅から約二十分、広島市の街をバスでガイドさんに案内されて、ようやく平和公園にたどり着いた。僕が最初に目にしたものは、テレビや写真などで何度も見た事のある原爆ドームだった。実際に見ると、原爆ドームの周りに大きなビルなどが建っていて、妙な光景だと思つた。しかし思つていた以上にインパクト

館に入場した。たくさん見学者がいて、あまり良く見られなかったが、原爆投下直後の広島市の模型を見ることができた。それは、焼けた土地や焼け落ちた建物の模型が台の上に再現されているだけだったが、原爆の凄さを改めて知った。そして原爆が投下されてから広島に降った黒い雨の跡を見た。白壁に流れ落ちる雨の跡は異様な黒さであった。不気味な感じがした。他にも写真などがたくさん展示されていて、どれも想像を絶する強烈なものだった。

僕は平和公園を見学して原爆の恐ろしさを再認識した。日本は世界最初の被爆国であるので、日本人として原爆の恐ろしさを



い牧場を経営していました。乳牛が約九十頭、雄牛十頭、放牧牛をいれると百五十頭もの牛を飼っていました。

一三四〇年の頃から先祖代々受け継がれた古い家柄であると、自慢の家系図を持ち出して見せてくれました。ヤンさんの趣味はハンティングです。訓練中の犬を二匹飼っていました。奥さんのルリさんは絵を描くのが趣味で、うまいのには驚きました。息子のアディさんはサイクリングが趣味でした。娘のアリーンさんは魚の目を治療する医師でした。診療所付きの家に住んでいました。



同窓会役員

◎本会役員

会長 菊地恒三郎
副会長 早乙女俊夫
金敷 芳雄

常任理事

佐藤利一郎
菅谷 忠太
田上 進一
井野 博
古橋 修一
青木 良雄
菅谷 佳宏
野沢 博
小坂 利雄
川又 侃
橋本 寛治
浅山 俊夫
豊田 守
服部 和子
平石 久夫
戸上 正巳
館 芳衛
大滝 弘明
野沢 弘
加藤 博

◎青年部

部長 菅谷 佳宏
副部長 加藤 太
栗田 秀登
桜井 一郎
保坂 尚
田崎 賢一
広瀬 豊
福田 修史
高平 登順
見目 松子
福原 栄

監事

上三川 黒須 英雄
河間 渡辺 忠雄
茨中 杉山 恵一
五所 中川喜久雄
小栗 飯島 荀
岩瀬 高橋 右一

編集後記

本校は四月より校名の変更など歴史的に大きく変わります。それにより同窓会は学校を支える柱の一つとして、素直に対応を致しております。

長らく親しんで来ましたが、会報の呼称も、第十九号をもって終りを告げますが、また新たな名称で会報を発行することになります。

これから同窓会は年々卒業生の増加につれて、同窓会の存在は、より重要なものになることは申すまでもありません。

その意味で平成七年度同窓会総会は記念すべき事柄となりそうです。ここに編集委員一同は母校の豊かな発展と同窓会の益々の隆盛を心よりご期待申し上げる次第であります。

編集委員長 井野 博

◎支部長

真岡 山田孝一郎
山前 山下圭治
大内 山菅 一郎
中村 広瀬 静
久下田 川村 武夫
物部 野沢 弘
長沼 海野 保
益子 大塚久一郎
田野 広田源太郎
七井 佐藤 忠雄
水橋 小林 武一
祖母井 山本 豊
南高 黒崎 亨
茂木 荒井 睦夫
小貝 関沢 仙
市羽 小林 泉吉
宇都宮 早乙女俊夫
瑞穂野 早乙女俊夫
清原 半田 光有
本郷 青柳 一富